

ポイント 貸借対照表においては所有資産価値と安全性に、損益計算書においては営業利益又は経常利益率に注意してみましょう

A6

貸借対照表

株式会社A社

(平成26年3月31日現在)

(単位：万円)

資産の部		負債の部	
流動資産	29,951	流動負債	25,879
現金・預金	6,367	支払手形	3,944
受取手形	5,690	買掛金	8,173
売掛金	12,700	短期借入金	8,736
棚卸資産	968	未払金・未払費用	2,213
その他流動資産	4,403	未払法人税等	821
貸倒引当金	△177	割引手形	224
固定資産	15,578	その他流動負債	1,768
有形固定資産	11,578	固定負債	12,505
建物	6,365	社債	2,221
土地	2,674	長期借入金	7,653
機械装置	2,354	退職給付引当金	1,222
その他	185	その他固定負債	1,409
無形固定資産	2,468	負債の部合計	38,384
投資その他資産	1,532	純資産の部	
投資有価証券	1,159	株主資本	
その他	373	資本金	1,800
		資本剰余金	1,502
		利益剰余金	3,843
		(うち当期利益)	1,147
		純資産の部合計	7,145
資産の部合計	45,529	負債・純資産の部合計	45,529

  

売上債権や棚卸資産は回収可能か

仮払金その他の資産はどのような内容か

減価償却が限度額までされているか

不動産や投資等がどれぐらいの時価となるか

資産合計が時価ベースでどれぐらいになるか

流動比率

$$\frac{29,951}{25,879} = 115\%$$
  

固定長期適合率

$$\frac{15,578}{12,505 + 7,145} = 79\%$$
  

自己資本比率

$$\frac{7,145}{45,529} = 15\%$$
  

固定比率

$$\frac{15,578}{7,145} = 218\%$$

損益計算書

株式会社A社

自平成25年4月 1日

至平成26年3月31日

(単位：万円)

	売上高		55,146	
	売上原価			
	期首商品棚卸高	2,197		
	当期商品仕入高	37,594		
	期末商品棚卸高	974	38,817	
	売上総利益		16,329	→ 売上総利益率 $\frac{16,329}{55,146} = 29\%$
	販売費及び一般管理費			
役員報酬はどの位であるか	役員報酬	2,826		
	給与及び賞与	2,492		
	福利厚生費	491		
減価償却費は限度額まで計上されているか	減価償却費	176		
	その他の経費	6,544	12,529	
	営業利益		3,800	→ 営業利益率 $\frac{3,800}{55,146} = 6\%$
	営業外収益			
	受取利息	121		
	その他の収益	538	659	
	営業外費用			
	支払利息	300		
	その他の費用	605	905	
	経常利益		3,544	→ 経常利益率 $\frac{3,544}{56,146} = 6\%$
特別な利益や損失とはどのようなものか	特別利益			
	投資有価証券売却益	174	174	
	特別損失			
	固定資産売却損	1,184	1,184	
	税引前当期純利益		2,544	→ 税引前当期純利益率 $\frac{2,544}{54,146} = 4\%$
	法人税等		1,397	
	当期純利益		1,147	→ 当期純利益率 $\frac{1,147}{55,146} = 2\%$